

道博協ニュース

発行 昭和55年12月20日
 発行所 北海道博物館協会(事務局)
 札幌市中央区宮ヶ丘3の1
 札幌市円山動物園内
 電話(011)621-1426

第12号

第十九回北海道博物館大会終る

第十九回北海道博物館大会(長)、来賓祝辞(北海道教育委員会教育長代理)等があり、及び相当施設に勤務する職員、並びに関係者が集まり、当面及び今後について、北海道博物館協会総会へ移り、研究討議し、広く社会教育の振興に寄与することを大会の趣旨として、去る六月二十六日(木)・二十七日(金)の両日浦河町福祉センターにおいて全道各館から九十名が参加し、成功裡に開催されました。

最初に第一号、第二号議案の昭和五十四年度事業報告、收支決算報告、会計監査報告がそれぞれ承認された。

次に第三号、第六号議案の昭和五十五年度事業計画、収支予算、会則の一部改正、役員補充選任(別掲)がそれぞれ原案どおり決定された。

また、第七号議案である明年の第二十回大会開催地を、網走市に決定した。なお、報告事項として、(一)会則施行

細則の制定(二)博物館等建設指針の作成経過について、それぞれ事務局より報告があった。

午前十時三十分から特別講演へ移り、「アイヌの民具」と題して、平取町二風谷アイヌ文化資料館副館長萱野茂氏より興味深い講演があり午前の部を終了した。

休憩時間を利用して、記念撮影を行い、午後一時より二会場に分かれて分科会を行った。

第一分科会は、「地域の要求と館・園の運営管理」をテーマとして次のとおり行われた。

発表者 助言者

一、旭川市立郷土博物館 学芸員 青柳 信克

二、(株)小樽水族館公社 総務部長 平野 治助

一、北海道開拓記念館 学芸部長 北川 芳男

二、網走市立郷土博物館 館長 米村 哲英

館長 寺島 敏治

第二分科会は、「地域の要求と館・園の教育普及活動」をテーマとして次のとおり行われた。

発表者 助言者

一、針里町立知床博物館 学芸係長 金盛 典夫

二、浦河町立郷土博物館 学芸員 谷岡 康孝

一、雪印乳業(株)史料館 館長 室本 清

二、日高教育局社会教育指導班 主査 坂井 和夫

司会者 北海道開拓記念館 特別学芸員 矢野 牧夫

分科会終了後、三時三十分より昨年の大会から行われることになった館長会議、学

第一日

午前九時から開会式を行い、主催者挨拶(北海道博物館協会会長)、歓迎の辞(浦河町

会長)、歓迎の辞(浦河町

会長)、歓迎の辞(浦河町

(2) 芸職員等会議が、二会場に分

かれて行われた。

午後四時三十分から、この

日最後の会議である全体会議

が行われ、議長団に午前中の

総会と同じく田中・米村両氏

を選出した。会議に先立ち、

都合により開会式に間に合わ

なかつた(社)日本博物館協

会専務理事毛利正夫氏より来

賓祝辞があつた。

全体会議では、第一分科会

及び第二分科会の発表討論の

概要についてそれぞれの司会

者であつた寺島敏治氏、矢野

牧夫氏から報告があり第一日

の日程を終了した。

なお、午後六時から懇親会

が開かれ、なごやかな歓談の

うちに親睦を深めた。

第二日

午前八時四十分から施設見

学へ出発し、スタリオンステ

ーション、浦河町立郷土博物

館、日本中央競馬会日高育成

牧場、農林水産省日高種畜牧

場の順で見学を行った後、最

後の見学場所である日高種畜

牧場で昼食、中川会長より開

催地浦河町へ感謝状の贈呈及

び散会の挨拶があり、二日間

の日程をどここおりなく終了

した。

前市立函館博物館学芸係

長

西田 祐一 規程第一号

市立函館博物館五稜郭分

館庶務係長

家田 照親 規程第一号

釧路市青少年科学館

谷内辰太郎 規程第一号

釧路市青少年科学館

田中卯太郎 規程第四号

市立北見郷土博物館

なお、今後の申請にあつ

ては、左記の点に留意願いた

い旨日博協より通知がありま

したので、あわせてお知らせ

いたします。

ついでには表彰の対象とな

る。

四、民俗資料の寄贈等、一

点毎の評価額の低いもの

は点数で評価することを

考慮する。

五、すでに顕彰を受けた者

顕彰を受けて

については表彰の対象とな
る。再顕彰はしない。また国
の叙位、叙勲あるいは褒
彰等を受けた者も、その
ことを理由に表彰は行わ
ない。

は五名です。

受彰を契機に振返って考え

て見ると、十八年前、博物

館には、門外漢の技術畑に育つて

いた私が、右も左もわからず

に飛び込んで、今考えると素

人の強さというか、冷汗をか

く様な事の連続でした。それ

が現在まで大過なく又仕事と

して、とても面白く興味をも

って過ごしてこれた事は、先

輩諸先生方、又同僚、後輩の

皆様の、一方ならぬお引立、

お力添えの賜物と心より感謝

を申し上げます。

博物館の世界程、各分野に
わたる専門の先生が揃ってい

道 博 協 二 ュ 一 ス

日本博物館協会

顕彰者決まる

昭和五十五年度日本博物館

協会顕彰者として、北海道支

部から次の五名の方が受賞し

ましたのでお知らせいたしま

す。

なお、受賞者を代表して、

内海館長より受賞の感想文を

寄せていただきましたので、

ご紹介いたします。(別掲)

内海 量夫 規程第一号

室蘭市青少年科学館長

(故)姫野 英夫 規程第一号

ただし、館の路問機関

の委員や名譽的な職務の

人は除く。

三、寄附、寄贈が会社等の

宣伝を意図したものは除

く。博物館事業を理解し

た展示品の寄附、寄贈に

て、どんな問題でも、その素
晴しさ、又真隨をわかり易く
教えていただくのに、好都合
な世界は無いと思っております。

一口に博物館と言っても、
ご存じの如く、歴史、考古か
ら美術、動物等。それに一番
新しい部門である、我々の担
当している理工系まで、多種
多様にわたっておりませんが、

その年代も歴史系が二千数百
年、理工系は約百年、日本で
実際に理工系博物館が普及し
初めてから二十年足らずです。

それが今回の顕彰者中、理工
館職員が北海道五名中三名、
全国で七十八名中二十八名も
の方が受けられたのには驚き
ました。理工系にも、多くの
永年勤続者が増え初めたる事
を嬉しく感じました。

大会冒頭の開会式で、熊本
市長様からいただいたご挨拶
の中に、昭和五十三年熊本市
立博物館本館を移転新築する
に当って、子供達に魅力ある
館にするべく、理工展示室を
新設、充実し、天文関係もプ
ラネタリウム等を新設し、

強化したと述べられたのには、
理工博物館に勤務する職員と
して嬉しく、又後で視察見学
時に見せていただいた館が、
総合博物館として理工部門を

実際に見事に取り上げ、活用さ
れているのに感心し、教えら
れる事の多かつたことを感謝
申し上げます。

各地の博物館を拝見し、最
近特に感ずるのですが、それ
ぞれの分野の館に、研究し、
蓄積されている情報や技術が、
相互に交流された場合。一つ
の例を上げれば、歴史、考古

系館に理工系展示技術が加え
られたり、又理工系の館に、

大探検家ライマンが予言し、
教え子、坂 市太郎によって
明治二十一年に発見された夕
張の石炭は、北海道炭礦鉄道
の追分夕張間の開通により、
明治二十五年には世に送り出
され、以来九十年あまりの間、

長い年月の経験を持つ人文、
自然系の専門知識が生かされ
た時、今後の博物館の大きな
方向づけ、転機が実現できる
のではないのでしょうか。

最後になりましたが、今回
顕彰をいただきましたのを機
会に、初心に戻り、より一層
研鑽にはげみ、微力ながら少
すでもお役に立つべく、心掛
けて参りたいと考えておりま
すので、今後共よろしく会員
皆様のご指導、ご鞭撻をお願
い申し上げます、お礼とご報告と
いたします。

(室蘭市青少年科学館)

重要なエネルギー源としても、
また、国策遂行に影響されて
も、浮沈盛衰の途をたどり、
いままた、流体エネルギー、
原子力エネルギーのもつ不安
定要素のなかに脚光を浴びよ
うとしております。

石炭博物館の

概要について

夕張の石炭博物館は、この
ような、エネルギーとしての
石炭と、石炭産業のこと、石
炭とともに生成発展した夕張
を、より多くの方々、特に、
夕張市の炭礦産業従事者の家
族に、炭礦の作業のようすを
認識していただくことと、合
せてエネルギー源としての石
炭を考えていただくことをね
らい、また、産炭地として生
きて来た炭礦のまぢを、観光
客誘致の一助にもとねがって
建てられたものです。

この石炭博物館は、博物館
本館、立坑、炭坑風俗館、炭
礦機械館、北海道指定天然記
念物「夕張の石炭大露頭」の
内部に設けられた史蹟夕張礦
という、五つのセクションよ
りできております。

それぞれのセクションのね
らいは、博物館本館では、石
炭の生成から発見、利用、炭
礦の紹介、炭礦のうつりかわ
り、保安、救命について理解
していただき、立坑では、地
下一千メートルを音と光で体
験、炭坑風俗館では明治、大

正、昭和に分けて、その頃の
炭坑の風俗を、八十三メー
ルの坑道に、人体三十三体を
使ったFRP造形による演出、
炭礦機械館は九十三メー
ルの輸車路に、史蹟夕張礦を掘
さくするとき使用したエア
・コンプレッサーをはじめ、
炭礦で使う大型機械の展示、
搜検のようす、坑口神社など
による炭礦の輸車路の体験。
史蹟夕張礦は、かつて北炭
が使ったほんものの坑道を利用
した模擬坑を整備拡充し、
明治末期の手廻り採炭から、
自走枠を使った近代採炭まで
を、ほんものの魅力で体験し
ていただくものです。
博物館本館は、鉄骨鉄筋コ
ンクリート造二階一部一階建
延面積二、四九三平方メートル、
外壁はレンガタイル張り、
展示室、エントランスホール、
講堂、事務室、会議室、研究
室、収蔵庫、工作室、電気機
械室などからできております。
展示は、森林と石炭、夕張
と石炭、夕張の自然、大自然
のエネルギー、これが炭礦だ、

(4) 炭礦のうつりかわり、炭礦をまもるといふ七つのテーマに分け、石炭の生成、発見、採掘、利用についてパネルや写真による情報と、模型、ジオラマを使い、石炭のことならなんでも理解できることをねがって展示しております。

七月一日オープン以来、九月末日までに五万人以上の方が見学しております。

石炭博物館は、石炭の歴史村計画十一、四ヘクタール、約

五十億円の計画の中核施設で、現在まで十二億五千万円で建設されましたが、さらに九月十三日はSし館がオープンしました。また来春オープンをめざして、やまの生活の工事がすでに着工しております。

なお、学び、遊び、憩うという三つの機能をもった全体計画の完成予定は、昭和五十八年であります。

動・事業を効果的にこなうべく施設を配置しています。敷地面積は四、三三二平方メートルあり、将来的には屋外展示や植物園、あるいは憩いの場としての公園等の計画もついています。

展示は、利尻島のさまざまな特色の中からテーマを設定し、さらに学校教育との関連性を充分に考慮にいれ構成しています。

漁を紹介しています。

二、「めぐまれた自然」では生活に深い影響を与える自然の姿を紹介しています。

三、「利尻町のう・今日・あした」では、利尻島に人がすみはじめてから今日に至るまでを一目でわかる年表形式にして紹介しています。

四、「海に生きる」では厳しい北国の自然環境のなかでたくましく生きた人々の姿を古くから現代にかけて展示しています。ここでは、ニシン漁当時のニシン番屋の一部を現寸大で復元しています。

五、「利尻の海」では、利尻島をとりまく海を科学的な視点からとらえ紹介しています。六、「海の人々」では、北の荒々しい海で生きるためのたゆまぬ努力をしている人々のあらゆる姿を紹介しています。

展示のほかには博物館活動として、自然探索会や体験学習シリーズ、さらに講演会等の教育普及事業を月二回開催しています。また出版活動の一環として「広報りしり」に毎

月紙上博物館を連載し、展示の解説や事業の案内等をおりこんでいます。

開館してからまだ五ヶ月ほどしかたつていませんが、地域の魅力ある博物館づくりをめざすべく努力しています。

所在地 利尻郡利尻町仙法志

電話 (〇一六三八) 五一四一一

新入館園紹介

本年度に道博協へ入会しました利尻町立博物館・新冠町郷土資料館より館の紹介記事を寄せていただきましたので、紹介いたします。

利尻町立博物館

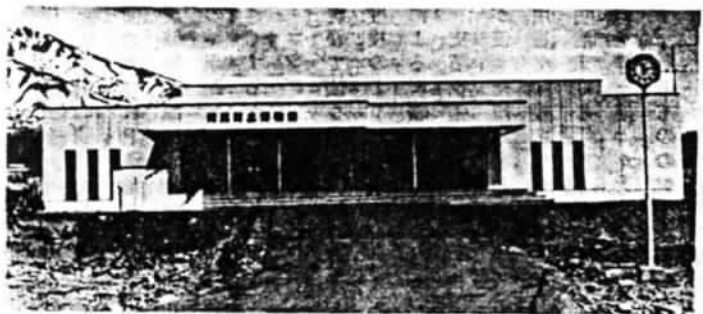
利尻町立博物館は昭和五十五年五月十一日に開館しました。郷土研究の中心的な役割を果たすとともに、未来の利尻を創造する場として利尻町

立博物館の基本的なあり方を定め、かかる観点から館の性格・機能・各種事業・活動、さらに施設設備、組織、運営の具体的な方針を定めています。

館の規模は八二〇平方メートルで展示関係で約半分を占めています。他に、エントランスホール、収蔵庫、講習室、作業室、事務室、図書・研究室があり、来館者の幅広い要求に対応するとともに、館の活

展示は大きく六つにわけています。

一、「ようこそ博物館へ」では、博物館の来館を歓迎する



新冠町郷土

資料館

新冠町は、豊かな自然に恵まれ、背後には幌尻岳を頂点とした日高山脈がそびえ、新冠川の水源もそれらの恩恵をうけています。

この町の歴史は、明治時代以来、卸料牧場と称される宮内省の治める軍馬の生産地として長く名を残し、静内町と門別町にまたがる広大な土地を有していました。今日のように民間の手にゆだねられたのは戦後になってからの事です。しかしながら社会の変化とともに開拓当時の資料は姿を失ないつつあり、住民の間から保存施設の必要性が叫ばれていました。そのような中で、来年は戸長役場が設置されて開町百年を迎えることから最もふさわしい施設として郷土資料館が建てられることになったのです。

郷土資料館は、昭和五十五年四月に開館し、「見て、ふ

考えて、考える資料館」として

親しまれるように配慮しています。鉄筋コンクリート造り二階建てで、一階は自然と町の概要、二階は歴史と民俗を中心とした展示をしています。

一階は、町内の動植物の剥製、標本とともに、今日の町を理解していただくようにマルチビジョンを導入し、映像とナレーションによって楽しみながら自然や産業を学ぶことができます。また、豊かな水源に恵まれて四ヶ所の発電

用ダムがあり、特に新冠ダム

は全道でも珍しい岩石を積み上げて作られたロックフィル式で、ビデオプロジェクトの映像によってその雄大さを見ることが出来ます。馬の

コーナーでは、世界の馬玩具をはじめ、町で生産されたサラブレッドの優勝レースの記録などを展示し、馬産地の特徴がうかがえます。

二階は、資料をできるだけ身近に感じさせるため露出展示に重点をおき、考古のコーナーは実際に縄文土器や縄文の模型によって体験できるようにしています。また、展示物を総合的にとらえるように開拓当時の復元家屋を作っております。

このように総合的に展示された資料館は、学校教育の授業として利用できるように「社会科副読本にかっぱ」の頁数を各展示の解説文に付し、生きた参考書として活用されています。

年間の事業として特別展、講座、野外活動があり、多く

の住民に利用されています。

入館料は大人百円、中学五十円、小学三十円。団体(二十名以上)は大人七十円、中学三十円、小学二十円。

休館日は毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始。

所在地 新冠郡新冠町字中央町二十六番地
電話 (〇一四六四) 七一六九四

ヨーロッパの動物園(三)

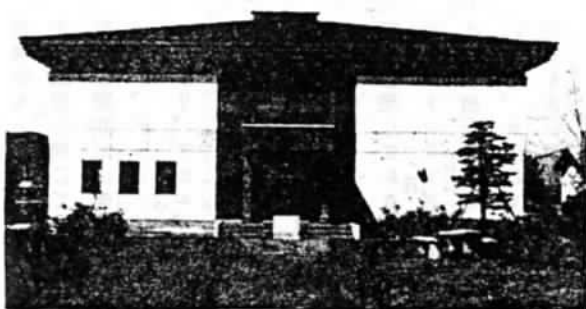
ビ、コビトカバ、アフリカンウ、メガネグマまで、繁殖の難しい種類についても成功しており、飼育技術のレベルの高さでは世界有数の動物園といわれています。

創立は千八百七十四年、非営利の会社組織で運営されており、職員数四十名、年間入園者数は九十万人です。

戦後、動物学者、心理学者として著名なヘディガー園長の指導のもとに、独自の飼育理論と動物優先主義をつらぬき、繁殖分野ばかりでなく、動物舎の基本構造、栄養のバランスと必要量、配合飼料の工夫まで、さまざまな研究で秀れた実績もあげております。

バーゼル動物公園(スイス) 湖と河の都チューリッヒから急行で一時間、人口二十万人の小都市バーゼルの中心部にあり、ズーロギツシャールテン、バーゼルは、面積十三ヘクタール、収容動物三百三十種、千六百点の動物を飼育しています。この動物園の特色は世界的な希少動物の収集と繁殖の成功で、ゴリラ、インドサイ、ホホアカトキなど

「ビバリウム」があり、昆虫、魚、両生類、爬虫類、ベリギンが収容されています。半地下式で屋外の池を横からガラス越しに視察できる水族館スタイルや、豊富な水草のなかを泳ぎまわる色彩豊かな熱帯魚、ヘビ、カメなどが目



然石や樹木をバックとして美しく修景されたパノラマ様式で展示されています。

巨大な類人猿舎は前面厚さ二十ミリの強化ガラスを使用し、ゴリラ、オランウータン

は幅七メートルを二枚のガラスだけで仕上げられていますので見易くなっています。バックは溶接金網ごしに熱帯植物が見られ、コンクリート動物舎の冷たさを柔らげてあります。

類人猿はいずれも繁殖成績がよく、年令の異なった幼獣が各群に数頭づつ見られます。ゴリラの繁殖が困難な理由として「太らせてはいけない、十二才のオスで二百五十キロ、メスで百四十キロが理想的である」という担当者の話が印象的でした。

ヨーロッパの動物園での教育活動はアメリカと比較してやや低調という感が強いが、パーゼルでは動物愛好会を中心とした活動のほか小中学生のために子供動物園を開放しており、放課後に市内から集まってきた子供達が飼育係の

指導のもとに動物の世話や、乗馬練習に興じておりました。動物の種類は山羊、緬羊、コブウシ、ポニー、ブタなどで、ニワトリ、アヒル、ガチョウなどとともに牧場スタイルの畜舎に収容されています。

アメリカの動物園・博物館では動物関係書を集めて売店等で販売しており、学術書外のペットシリーズ等で日本では入手出来ない本が少なくないので、今回のヨーロッパ旅行でも本の購入を目的の一つとしておりました。しかし、ヨーロッパでは本の販売取扱いは少なくロンドン、アムステルダム、パーゼルで見受けただけでした。パーゼルでは数百冊の本が展示されており、掘出物を期待して探がしまし

たが残念ながら、独・仏語ばかりで、チンブン・カンブン、語学力の必要性を痛感させられただけでした。

(札幌市円山動物園)

補充選任役員紹介

昨年度の総会において役員が改選されましたが、その後人事異動により転出されたため欠員となった役員について、本年度の総会で補充選任しましたので、紹介いたします。

副会長 浦野 彦正

市立函館博物館長

(池田和男氏の後任)

理事 北 陽雄

道立近代美術館副館長

(岩原市男氏の後任)

監事 大石 章

小樽市博物館長

(柴田健治氏の後任)

会員の異動

入会

。団体会員

新冠町郷土資料館

新冠町新冠町字中央町

二十六番地

利尻町立博物館

利尻郡利尻町仙法志字

本町一三六番地
美幌町郷土資料館

網走郡美幌町東二条北二丁目

士別市郷土博物館設立準備室

士別市東三条四丁目

青少年会館内

。個人会員

青木 隆夫

事務局より

。本年度の最大事業でありました第十九回大会は、事務局が不慣れのため満足の行かない点が数多くあったことと思いますが、開催地の浦河町並びに浦河町教育委員会はじめ会員各位の絶大な協力により無事予定どおり終了することができましたことを、紙上を借りて改めて厚くお礼申し上げます。

。本年度の学芸職員研修会は、左記の日程で行われる予定ですので、あらかじめお知らせいたします。

一、日時 昭和五十六年二月十四日(土)、十五

日(日)
二、会場 苫小牧市青少年センター

三、宿泊場所 望洋閣

白老町字虎杖浜二八九

。団体会員及び個人会員で、本年度の負担金を未納の方がおられますので、年度内に必ず納入されますようお願いいたします。

。春の人事異動にともない、事務局を担当する当園の職員にも一部交替がありましたので、お知らせいたします。

なお、これにより現在の事務局担当者は次のとおりですので、ご用の際は遠慮なくお申しつけ下さい。

事務局長 金森 裕

円山動物園々々長

幹事 中出 修

円山動物園管理課長

(五十五年四月二十一日付け異動)

幹事 舟田 典彦

円山動物園事務係長

書記 松居 国男

円山動物園管理課